

災害時の情報伝達、情報集約の デジタル化に係る取組み状況 (発災時の業務のDX化)

※DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略で、デジタル技術を用いることで、人々の生活をより良いものへと変革すること



避難所の情報伝達手段はアナログが多い



ほとんどがFAX、電話、メール

- 上記をシステム化(DX化)することで、避難後の情報集約・伝達をスムーズにできないか。
- ただ事業者に委託して作成するのではなく、「学生の知見」も取り入れることで、ユーザー目線や地域のノウハウを盛り込んだシステム開発ができないか。

6/18(土)に、明石高専において、防災DXに係るワークショップを開催しました。

- 6/18(土) 9:30~17:00
- 合計13名(明石高専11名、明南高校2名)の学生が3グループに分かれてディスカッション
- 当日の流れ



午前

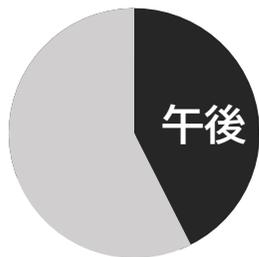
イントロ・市役所からの説明



各テーマに分かれた職員に、学生の各グループが取材して回ります



避難者の情報集約や情報伝達、
市の災害対応など、デジタルで
解決したいテーマについて、
市の職員からプレゼン



午前中の市役所からのプレゼンを聞いて、各グループでDXにより解決したい課題を決定。
具体的なシステムイメージを話し合いつつ、システムの開発をしていきます。



ホワイトボードや付箋をを使いつつ、
出来上がるシステムのイメージを
みんなで作り上げました。



イメージが出来上がったら
民間のエンジニアのサポートのもと、
システムを作成していききました。

防災資機材の各部署の予約システム

ログイン	備品リスト
名前	AED
部署名	救急セット
内線番号	非接触体温計
ログイン	非接触体温計
	ベスト
	メガホン
	誘導棒



避難者情報登録システム

職員参集システム

職員参集システム
1. 職員コード
2. 安全状況
3. 家族の安全状況
4. 登庁の可否



住民同士の情報発信



(株)スクーミーの協力のもと、プログラム経験がない人でも簡単にシステムが作れるサービスを活用しました。

今後、システムをより良いものに改良し、10月に完成させる予定です。